

令和 7 年環境モニタリング結果及び 令和 8 年度計画について (概要版)

令和 8 年 3 月 8 日
一般財団法人 茨城県環境保全事業団

令和7年度 環境モニタリング計画及び実績

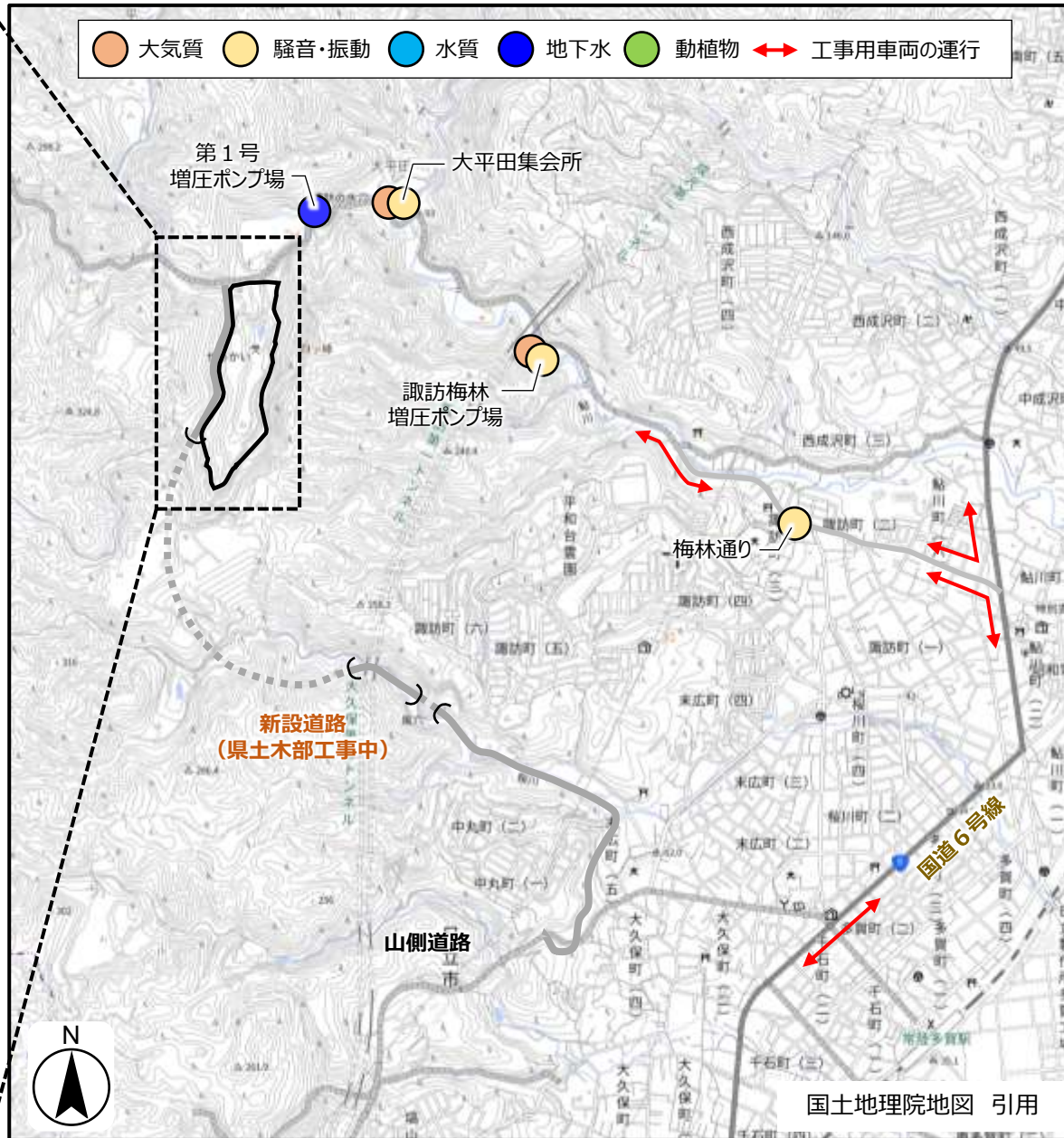
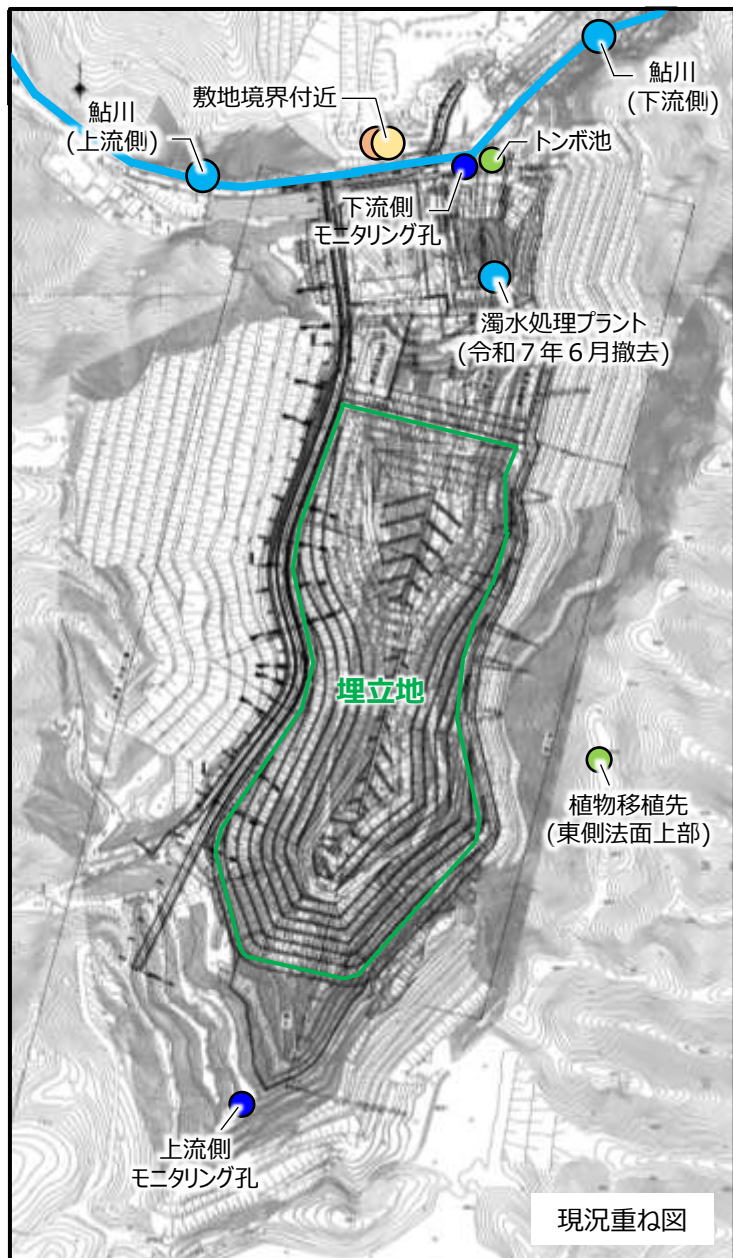
測定項目、場所等 (■ : 生活環境調査委員会で環境保全対策が必要とされた箇所)				モニタリング 予定	令和7年												備考
					1月 ^{※1}	2月 ^{※1}	3月 ^{※1}	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
大気	一般環境	浮遊粒子状物質 窒素酸化物 ^{※2} 三酸化硫黄 ^{※2} 降下ばいじん、気象	処分場敷地境界付近 大平田集会所	工事中 ～供用後		●				●			●		・降下ばいじんを抑制する ための散水等の対策実施		
	道路沿道	浮遊粒子状物質 窒素酸化物、気象	諏訪梅林増圧ポンプ場	工事中 のみ		●				●			●				
騒音 振動	環境	騒音・振動レベル	処分場敷地境界付近 大平田集会所	工事中 ～供用後		●				●			●		アセス結果に基づき 環境対策を実施		
	道路交通	騒音・振動レベル 交通量	諏訪梅林増圧ポンプ場 梅林通り	工事中 のみ		●				●			●				
水質	周辺井戸	水道水質基準 連続(pH、EC、水位)	周辺井戸 (1箇所)	工事中 ～供用後	← 連続 →												
	場内 監視 井戸	規制項目等①	場内監視井戸 (2箇所)	工事中 ～供用後		●			●			●			●		
		規制項目等②			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
		連続(pH、EC、水位)			← 連続 →												
	雨水 排水	排水基準項目等①	仮設沈砂池1箇所 (濁水処理プラント)	工事中 ～供用後		●			●			○			○	・濁水処理プラント撤去 に伴い、5月で採水は一 旦停止 ・防災調整池及び周辺 水路の整備完了後、再 開予定 ※詳細は後ページに掲載	
		排水基準項目等②			●		●	●	○	○	○	○	○	○			
排水基準項目等③		●			●	●	●	●	○	○	○	○	○	○			
連続(pH、EC)		← 連続 →															
河川 水質	環境基準項目等	放流地点(上流、下流)	工事中 ～供用後		●				●				●				
河川 底質	11項目	放流地点(上流、下流)	工事中 ～供用後		●				●				●				
動植物	動物	ネキトンボ	トンボ池	工事中 ～供用後					●				●		アセス結果に基づき 環境対策を実施		
	植物	カゴノキ、キジョラン	東側法面上部 移植先	工事中 ～供用後					●				●		アセス結果に基づき 環境対策を実施		

※1 令和7年1～3月実施調査は前年度環境モニタリング計画に基づく調査

※2 令和7年度より削除

● : 調査計画どおり実施、○ : 工事状況により実施せず

令和7年度 環境モニタリング 調査地点



令和7年 環境モニタリング結果の概要

項目	結果
1 生活環境調査委員会の結果を踏まえて環境保全対策を実施した項目の調査結果	<p>①梅林通りにおける騒音レベル 昨年度から引き続き、騒音の原因となる急発進・急ブレーキをしない等の運転マナーを徹底するよう、請負業者への指導を行っている。 <u>騒音レベルの測定結果(L_{eq})は、工事前と工事開始後の令和6年、7年で同等であった。突発的な騒音を反映した90%上端値(L₅)についても工事開始前後で同等であった。</u> また、<u>大型車両台数は工事前(518台)より工事開始後(令和6年は最大427台、令和7年は最大414台)の方が少なかった。</u></p> <p>②動植物の保全措置 工事着工前に移植措置を実施した動物(ネキトンボ)、植物(カゴノキ、キジョラン)の調査の結果、<u>順調に生育していることを確認した。</u></p>
2 夏季におけるセミの影響を考慮した騒音レベルの測定結果	<p>昨年度から引き続き、精密騒音計を使用して騒音レベルの周波数特性を整理し、セミの鳴き声の影響を考察した。 今年度の調査地点(梅林通り)においても、<u>セミの鳴き声の特徴である4kHz以上の周波数にピークが観察され、セミの鳴き声による騒音レベルへの影響があると推測された。</u></p>
3 降下ばいじんの測定結果及びその対策	<p>令和6年度冬季の測定で、敷地境界付近地点の降下ばいじん量が、参考値(10t/km²/月)を超過(18.2t/km²/月)した。 対策として、<u>掘削岩の破碎機出口への散水や場内散水頻度を増加させる対策を追加し、春季以降の測定では減少傾向となった。</u></p>

令和7年 大気質、騒音・振動調査地点



測定中の様子



降下ばいじん採取 (①敷地境界)



大気測定状況 (②大平田集会所)



風向風速計 (③諏訪梅林増圧ポンプ場)



工事用車両 (③諏訪梅林付近)



騒音振動測定状況 (②大平田集会所)



騒音振動測定状況 (④梅林通り)

令和7年 大気質調査結果

□ : グラフ化した部分

地点	調査時期	浮遊粒子状物質[mg/m ³]	二酸化窒素[ppm]	二酸化硫黄[ppm]	降下ばいじん[t/km ² /月]	平均風速[m/s]	最多風向
		日平均値最高値	日平均値最高値	日平均値最高値	測定値	測定値	測定値
環境基準 (降下ばいじん参考値)		0.10	0.06	0.04	10	-	-
処分場敷地境界付近	工事開始前 ^{※1}	0.006~0.014	0.003~0.004	0.001~0.002	0.60~1.56	1.3~2.0	北北東
	令和6年	0.019~0.024	0.003~0.008	0.001	3.23~5.92	1.5~1.8	西南西
	令和7年	0.017~0.068	0.005~0.015	0.001	2.80~18.2	1.4~2.0	西南西
	予測結果 ^{※2}	0.012	0.034	0.001	4.06~4.56	-	-
大平田集会所(近隣住居)	工事開始前 ^{※1}	0.009~0.014	0.004~0.007	0.001	-	0.6~1.1	南南東
	令和6年	0.017~0.023	0.003~0.004	0.000~0.001	1.07~1.37	0.9~1.2	北
	令和7年	0.010~0.055	0.004	0.000	1.21~4.84	0.6~1.2	北北西
	予測結果 ^{※2}	0.008	0.006	0.001	-	-	-
諏訪梅林増圧ポンプ場	工事開始前 ^{※3}	0.090	0.005	-	-	1.1	北北西
	令和6年	0.015~0.024	0.005~0.006	-	-	0.6~0.9	北
	令和7年	0.010~0.064	0.006~0.007	-	-	0.4~1.0	北北西
	予測結果 ^{※2}	0.027	0.016	-	-	-	-
周辺の測定結果		0.028 (R6日立多賀)	0.008 (R6日立多賀)	0.001 (R6日立市役所)	1.51 (R5日立市役所)	-	-

※1 : 環境影響評価 (自主アセス) 時の調査結果、※2 : 環境影響評価の予測結果、諏訪梅林増圧ポンプ場は梅林通りの予測結果を記載、※3 : 令和6年4月事前調査結果

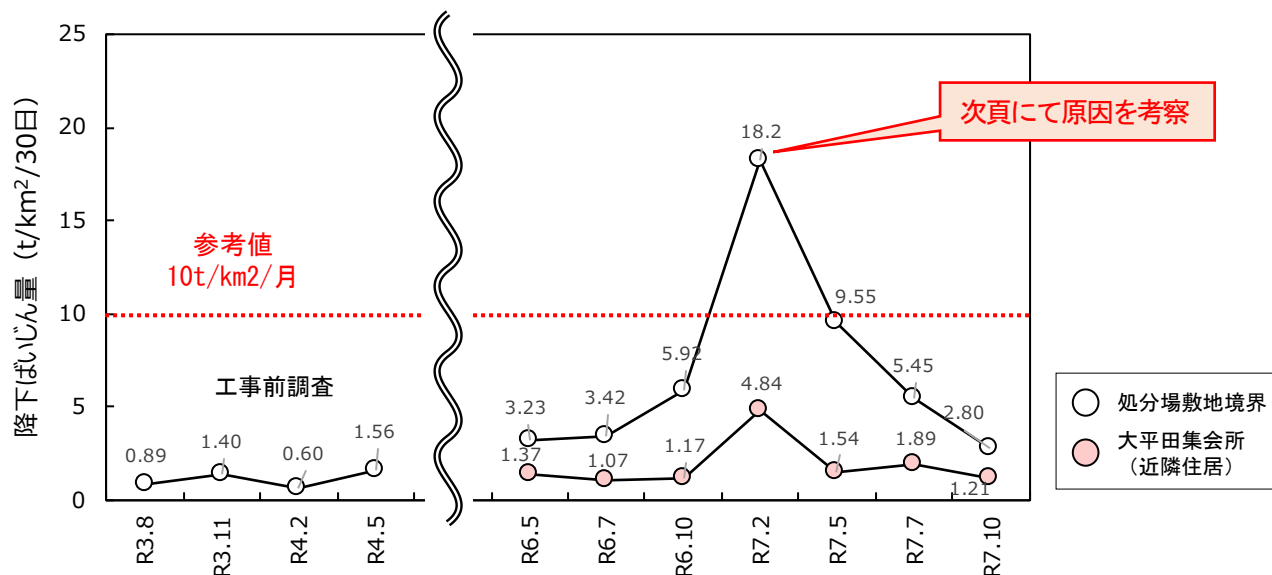


図 降下ばいじん量の推移

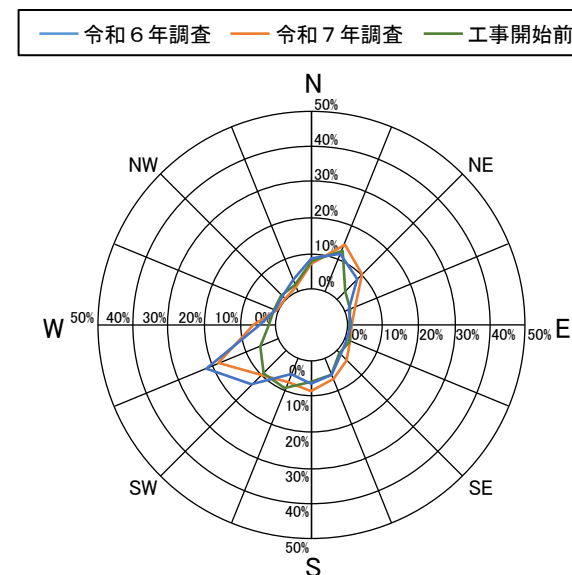


図 処分場敷地境界付近の風配図

令和7年 大気質調査結果（降下ばいじん量増加の原因調査と対策（1））

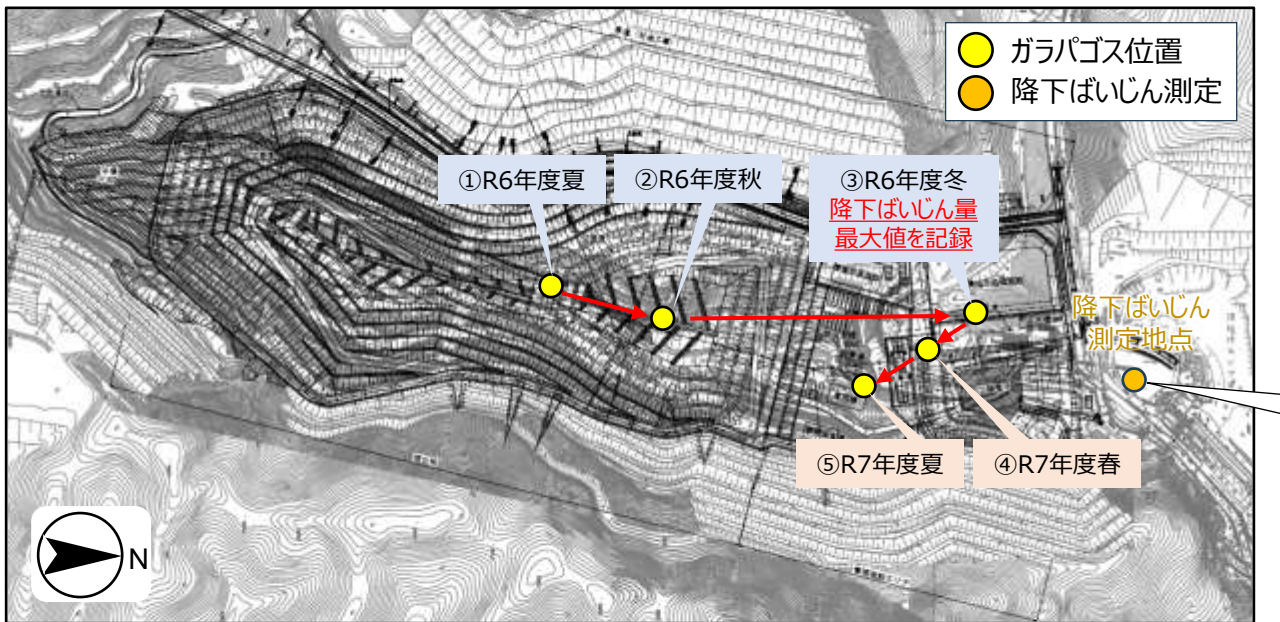
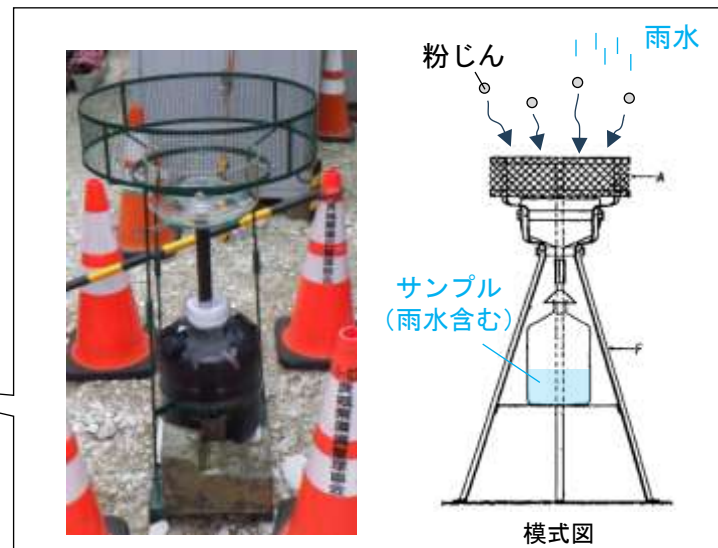


図 降下ばいじん測定期間でのガラパゴスの位置と測定地点の関係



降下ばいじん計（デポジットゲージ）

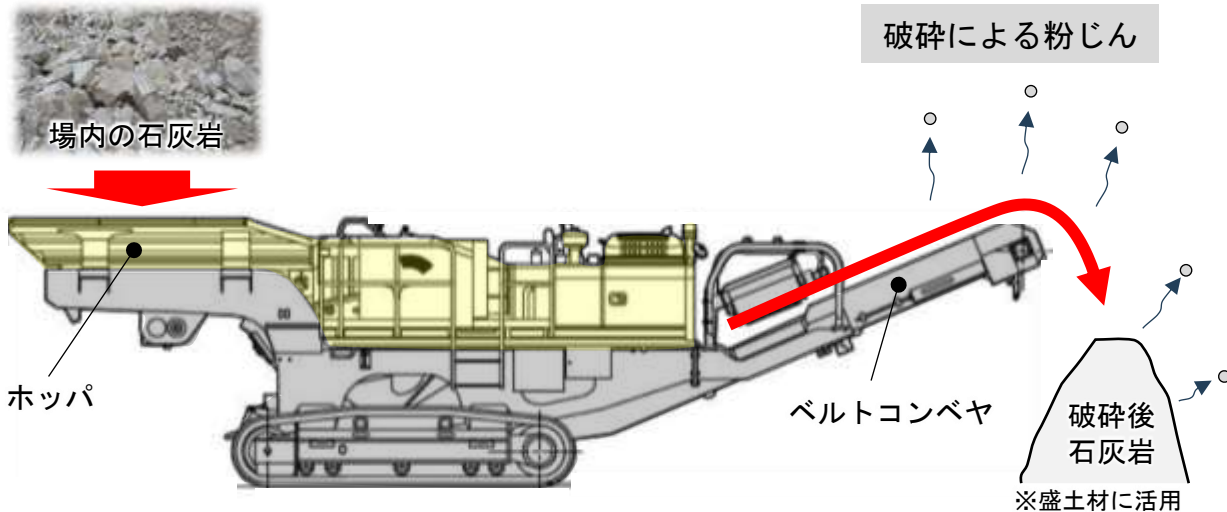


図 ガラパゴスによる石灰岩の破碎の流れ（模式図）



(a) 敷地境界 (b) 大平田集会所

サンプル写真(令和6年度冬季)

令和7年 大気質調査結果（降下ばいじん量増加の原因調査と対策（2））

表 降下ばいじん量の調査期間と考えられる要因の一覧表

■：降下ばいじん量の増加に影響が大きいと考えられる要因

		R6夏	R6秋	R6冬	R7春	R7夏	R7秋	R7冬	備考
調査結果	降下ばいじん量 [t/km ² /30日]	3.42	5.92	18.2	9.55	5.45	2.80		参考値：10t/km ² /月
要因	①ガラパゴスから測定地点の距離[m]	450m	390m	150m	150m	240m	稼働なし		令和6年度の冬季調査時、距離は最短の150mであった。
	②ガラパゴスの平均破砕量[m ³ /日]	778 m ³ /日	258 m ³ /日	437 m ³ /日	549 m ³ /日	608 m ³ /日	稼働なし		令和6年度の冬季調査時、ガラパゴスの破砕量は特段多くはなかった。
	③平均降雨量 [mm/日]	2.3 mm/日	3.1 mm/日	0.0 mm/日	4.8 mm/日	2.1 mm/日	2.9 mm/日	調査中	令和6年度の冬季調査時、降雨がない状況だった。
	④場内散水の有無	有	有	無 凍結防止	有 頻度増	有 頻度増	有 頻度増		令和6年度の冬季調査時、凍結防止のため散水を中止していた。
	⑤卓越風向[-]	WSW	WSW	WSW	WSW	NNE	NE		R6春～R7春の風向はWSWで変化なし。
	⑥平均風速[-]	1.5	1.5	1.9	1.4	2.0	1.4		風速に大きな変化はなかった。
対策	ガラパゴス出口への散水	-	-	-	対策中	対策中	対策中	対策中	令和7年度冬季調査後、ガラパゴス出口への散水を開始

◆ 降下ばいじん量の参考値超過の原因考察

令和6年度冬季に降下ばいじん量が増加した要因は以下が考えられた。

- ①石灰岩を破砕しているガラパゴスと測定地点の距離が近かった。
- ③降下ばいじんの測定期間に降雨がなかった（累計0.0mm）。
- ④凍結防止のため、現場の散水を取りやめていた。

◆ 降下ばいじん量を低減させるための対策

- ・ガラパゴス出口に直接散水を行うこと（右写真）
- ・場内の散水頻度を1時間に2回まで上昇させること



令和7年 騒音・振動調査結果

□ : グラフ化した部分

地点 (騒音発生源)	調査時期	騒音レベル(dB) <昼間6~22時>			振動レベル(dB) <昼間6~22時>		断面交通量(昼間、台) <昼間6~22時>			
		90%上端値 ($L_{5,16h}$)	等価騒音レベル ($L_{eq,16h}$)	環境基準等	振動レベル ($L_{10,16h}$)	基準等	大型車	小型車	工事関係車両	合計
処分場 敷地境界付近 (建設重機)	工事開始前	64	57	85 ^{※1}	<30	75 ^{※2}	-	-	-	-
	令和6年	60~64	60~67		<25~37					
	令和7年	59~63	58~66		<25					
	予測結果	81	-		75					
大平田 集会所 (建設重機)	工事開始前	56	56	65	<30	-	-	-	-	-
	令和6年	55~56	55~56		<25					
	令和7年	54~55	53		<25					
	予測結果	-	56		33					
諏訪梅林 増圧ポンプ場 (工用車両)	工事開始前	68	64	70	<25	55 ^{※3}	388	1,693	0	2,081
	令和6年	68	64~65		<25		198~367	1,683~1,949	4~12	1,963~2,258
	令和7年	68~69	64~66		<25~28		282~340	1,594~1,883	4~20	1,949~2,169
	予測結果	-	-		-		-	-	-	-
梅林通り (工用車両)	工事開始前	69	64	70 ^{※4}	31	-	518	4,515	0	5,033
	令和6年	67~68	63~65		29~30		343~427	4,046~4,302	4~12	4,397~4,669
	令和7年	67~69	62~64		29~30		334~414	3,944~4,259	4~20	4,348~4,624
	予測結果	-	64		31		-	-	-	-

※1: 特定建設作業騒音の規制基準 (L_5)、※2: 特定建設作業振動の規制基準、※3: 人が振動を感じ始めると思われる感覚閾値、※4: 令和6年4月に梅林通りが市道から県道となったことから、環境基準(昼間)が60dBから70dBになった。

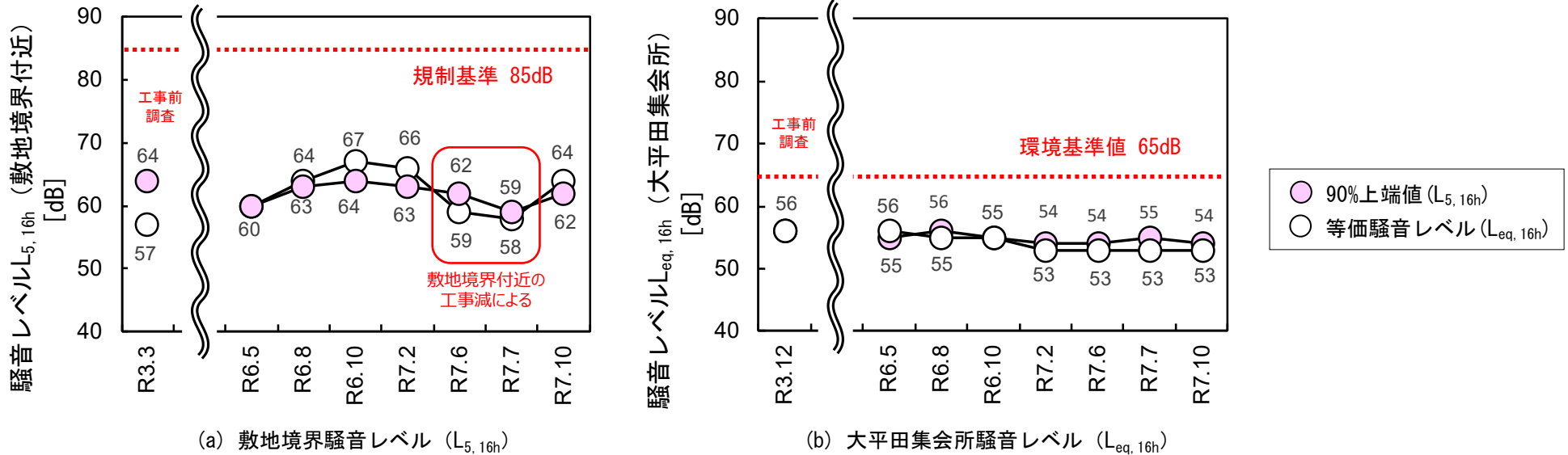


図 敷地境界、大平田集会所及び諏訪梅林増圧ポンプ場での騒音レベルの推移

令和7年 騒音調査結果（梅林通り）



梅林通り 騒音・振動測定地点の様子

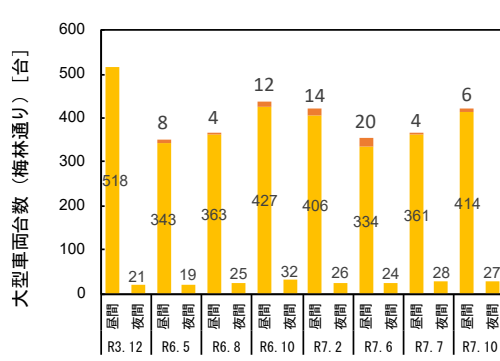
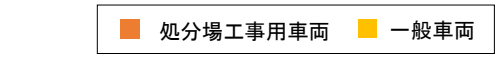
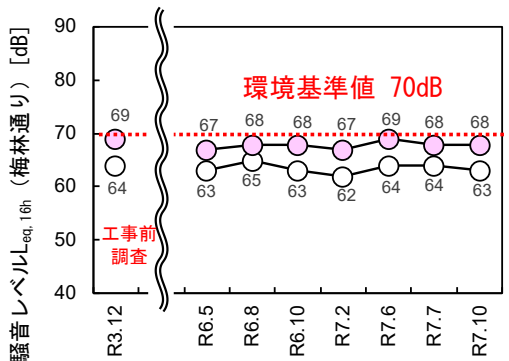
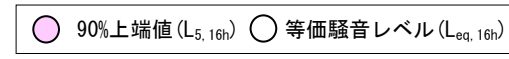
環境保全対策

工事車両は運行速度の順守、急発進、急停車をしないといった等の丁寧な運転により可能な限り騒音影響が低減できるように配慮することとした。

さらに、工事用車両は原則片道最大30台/日とするよう、請負業者へ指導している。

環境保全対策	内容
運行速度の厳守	資材及び機械の運搬に用いる車両は、運行速度を厳守する。
丁寧な運転の配慮	急発進、急停車をしない等の丁寧な運転を行う。

測定結果



(a) 騒音レベル (L_{eq,16h})

(b) 大型車両台数

図 梅林通りにおける騒音レベル及び大型車両台数の推移

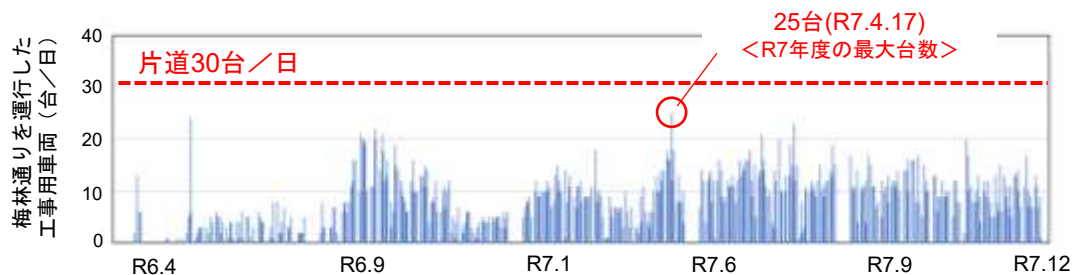
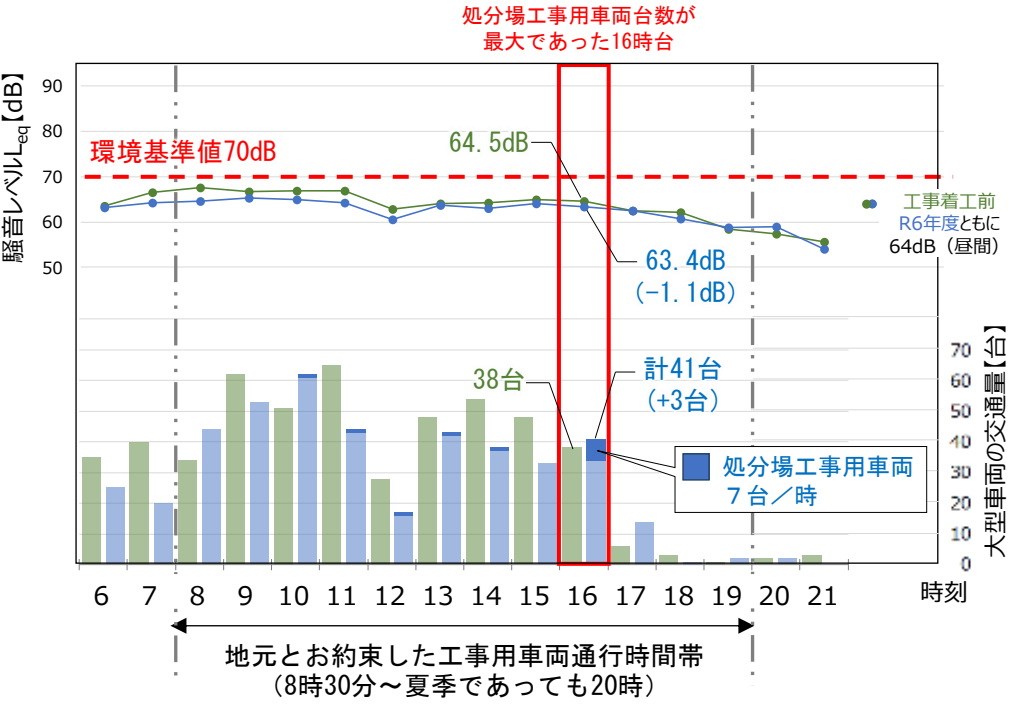


図 梅林通りを運行した1日あたりの工事用車両台数の推移 (株木JVより提供)

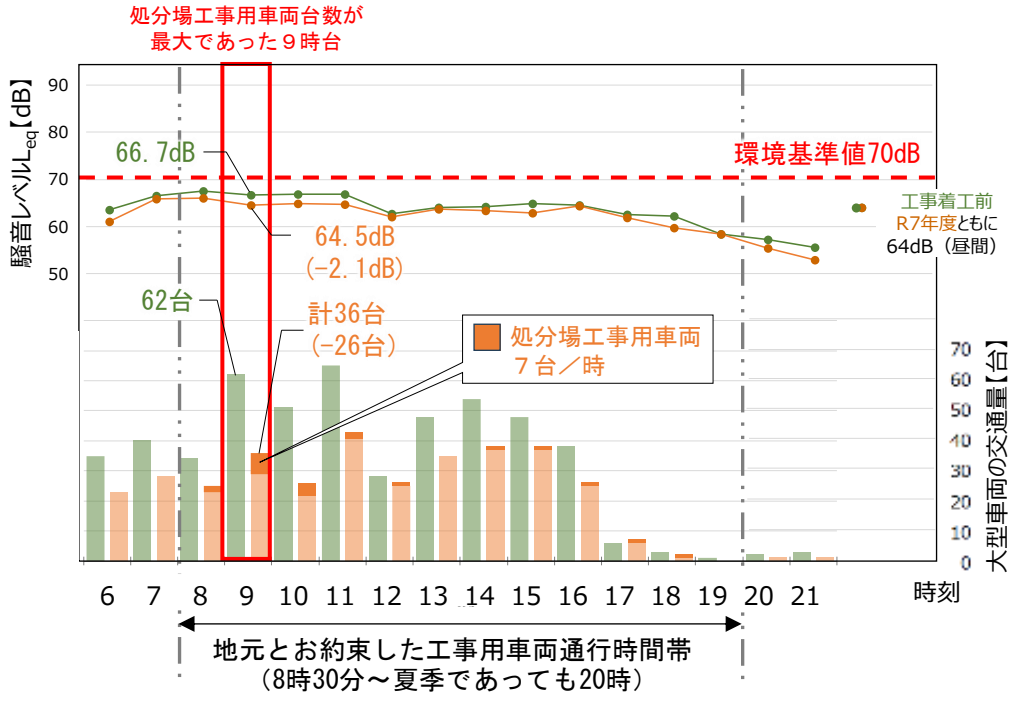
騒音レベルの測定結果は1日の時間変動データを示すようにしてほしい。(辻村壮平委員)

■ 工事着工前 (令和3年12月23日~24日)
■ 令和6年度 (令和6年10月31日~11月1日)
 ※令和6年度は処分場の工事用車両台数が最大であった秋季データを採用

■ 工事着工前 (令和3年12月23日~24日)
■ 令和7年度 (令和6年6月12日~13日)
 ※令和7年度は処分場の工事用車両台数が最大であった春季データを採用



(a) 令和6年度



(b) 令和7年度

図 梅林通りにおける騒音レベル及び車両台数の時間変動 (工事着工前、令和6・7年度)

- ・梅林通りの昼間の騒音レベルは、時間ではばらつきはあるものの、工事着工前後で概ね同等であった。
- ・令和6年10月31日16時の交通量は、処分場の工事用車両台数(7台/時)により、工事着工前より大型車両台数が増加(3台/時)していたが、騒音レベルは64.5dBから63.4dBまで低下していた。

令和7年 夏季の騒音調査の取扱いについて

セミの鳴き声の影響について

夏季の騒音調査では、セミの鳴き声の影響が考えられるため、測定結果の周波数特性を整理することにより、工事中の騒音影響を確認した。

測定方法と文献（注）によるセミ（ミンミンゼミ）の周波数特性を以下に示す。

注：「A Statistical Analysis of Robust Cicada Noise Level」（inter-noise 2023,2-P-31,pp.6422-6448, August 20-23, 2023. Leo Misono, Kenji Muto）

表 セミの鳴き声の影響を確認するための騒音測定方法

調査時期	測定方法と測定結果の整理方法
夏季以外	普通騒音計による測定（通常（OA）整理）
夏季	精密騒音計による測定（OA及び周波数特性の整理）

※O.A.: オーバーオール値（各周波数での音圧レベルを合計した値）

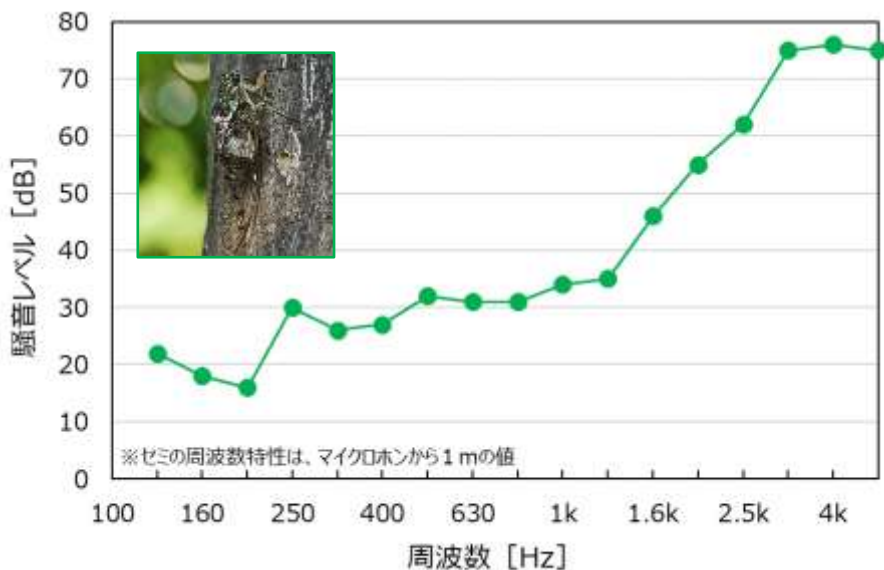


図 文献によるセミの周波数特性

測定結果

□: 周波数ごとの騒音レベルを測定した箇所

	等価騒音レベル調査結果（昼間、dB）				備考
	処分場敷地境界※1	大平田集会所	諏訪梅林増圧ポンプ場	梅林通り	
環境基準等	85※2	65	70	70※3	—
工事開始前	64 (R3.3、春)	56 (R3.3、春)	64 (R6.4、春)	64 (R3.12、冬)	
工事開始後	63 (R6.8、夏)	55 (R6.8、夏)	65 (R6.8、夏)	65 (R6.8、夏)	昨年度ご報告済
	59 (R7.7、夏)	53 (R7.7、夏)	66 (R7.7、夏)	64 (R7.7、夏)	今年度ご報告

※1: 処分場敷地境界については、L5を記載、※2: 特定建設作業騒音の規制基準(L5)、
 ※3: 令和6年4月に梅林通りが市道から県道となり、環境基準が60dBから70dBとなった。

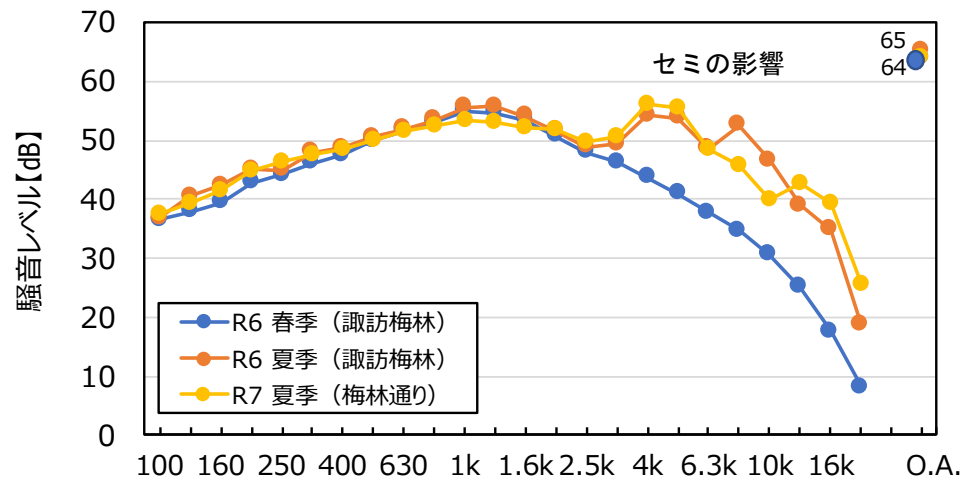
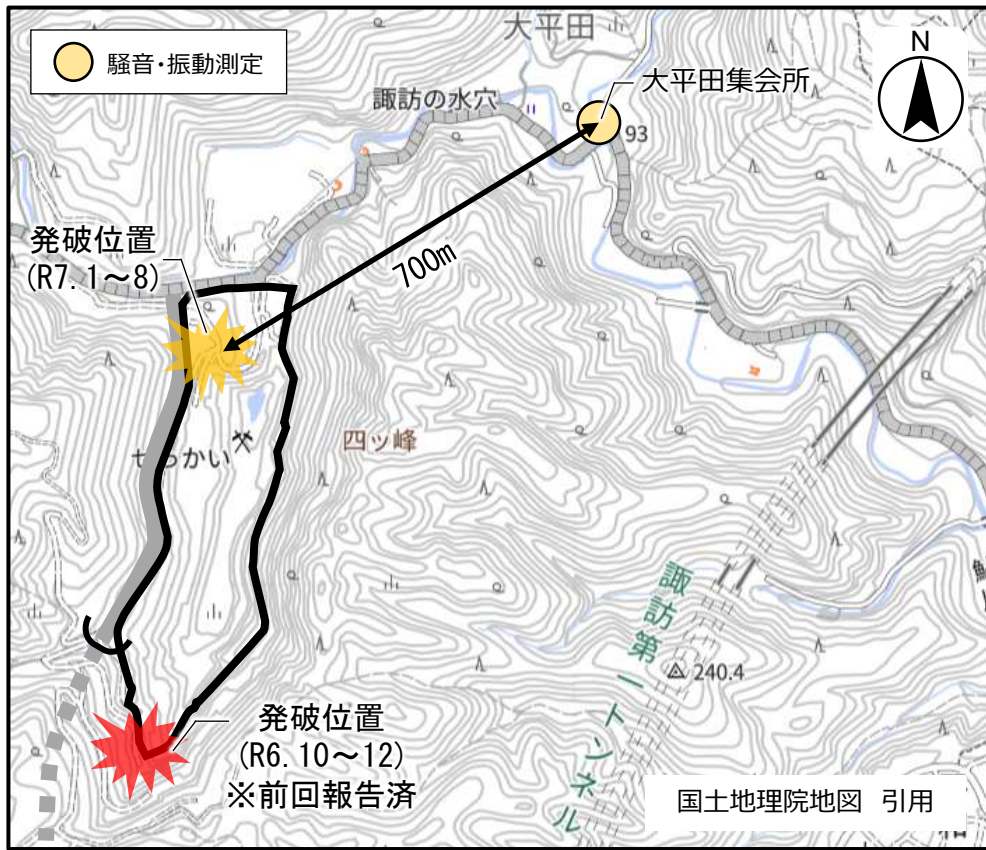


図 測定時期による周波数特性（昼間）

- ・昨年同様、夏季にセミの周波数帯に騒音レベルのピークが確認された。
- ・夏季の測定結果は、他の時期よりも1dB程度高くなるのが推定される。

令和7年 発破による騒音・振動の予測評価及び測定結果



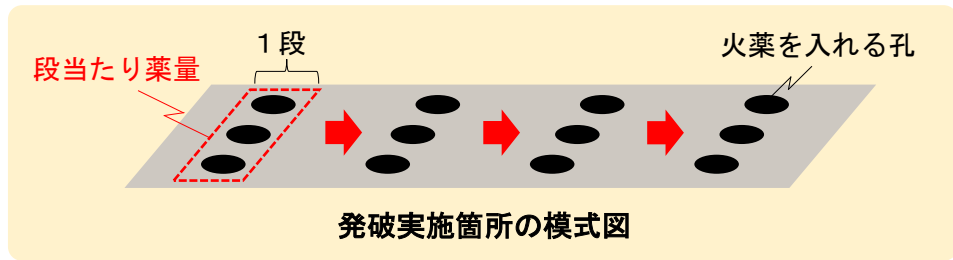
浸出水処理施設付近での発破の様子

予測評価式

出典：あんな発破こんな発破 発破事例集(平成14年3月、日本火薬工業会)

<前提条件>

大平田集会所までの距離 700 m
 段当たり薬量 92.5 kg



<予測式>

$$\begin{aligned} \text{騒音} : L_A (\text{騒音レベル}) &= 114.7 + 13.0 \log W - 20 \log D \quad \underline{-L} \\ \text{振動} : V (\text{加速度}) &= K \times W^{3/4} \times D^{-2} \\ V_L (\text{振動レベル}) &= 20 \log V + 83 \end{aligned}$$

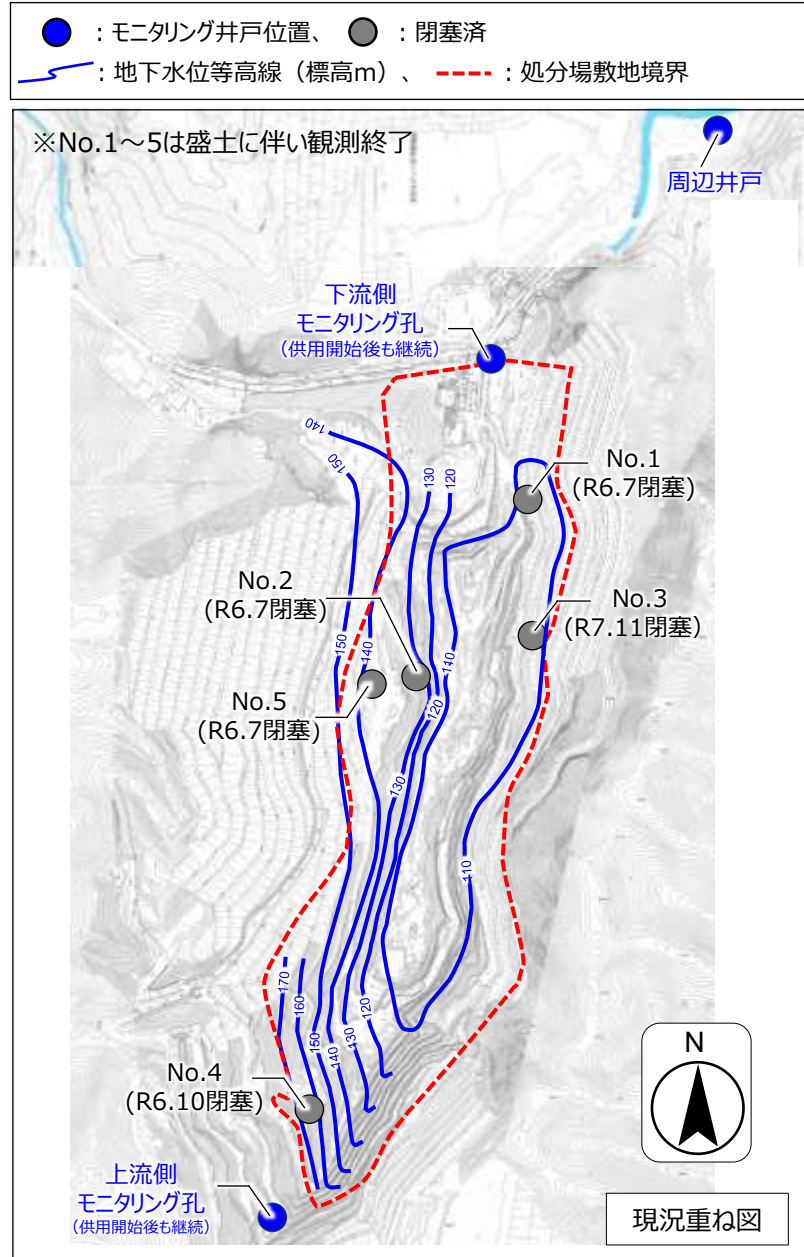
W:薬量(kg)、D:発破からの距離(m)、K:発破種類別の係数(1,150)
 - L:障害物等の減衰(dB)・・・安全側で計算するため考慮しない

予測評価結果及び測定結果

項目	基準値 (火薬学会提言値)	予測評価結果	測定結果 (R7.1.31測定)
騒音	86dB (暗騒音(56dB)+30dB)	○ 83dB	○ 70.2dB
振動	60dB (暗振動(<30dB)+30dB)	○ 60dB	○ 26.1dB

発破の騒音・振動による
 周辺環境への影響はほとんどないものと考えられた。

令和7年 地下水調査地点



測定中の様子



上流側モニタリング孔採水状況



下流側モニタリング孔採水状況



周辺井戸採水状況



井戸採水試料

調査項目 (抜粋して記載)	単位	環境基準等	上流井戸		下流井戸	
			令和6年	令和7年	令和6年	令和7年
鉛	mg/L	0.01	N.D.~0.002	N.D.~0.002	N.D.~0.003	N.D.
電気伝導率 (月1サンプリング)	mS/m	-	28.5~31.4	26.5~34.5	22.8~24.4	22.3~30.2
〃 (連続測定)	mS/m	-	-	-	左下グラフのとおり	
塩化物イオン	mg/L	200	4.6~6.3	3.2~5.6	6.7~7.4	6.9~10.0
ダイオキシン類	pg-TEQ/L	1	0.034~0.035	0.029~0.093	0.043~0.051	0.031~0.032
ヒ素	mg/L	-	N.D.	N.D.~0.001	N.D.	N.D.
上記以外 (重金属等)	mg/L	項目ごと	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
水素イオン濃度	-	-	7.2~7.4	7.1~7.5	7.6~8.0	7.6~8.0
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	-	N.D.~0.7	N.D.~0.5	N.D.~0.8	N.D.~1.5
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	-	N.D.~2.2	N.D.~2.2	N.D.~2.1	N.D.~1.1
ふっ素	mg/L	0.8	N.D.	N.D.~0.14	N.D.	N.D.
ほう素	mg/L	1	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
水温	℃	-	19.8~21.8	20.0~20.6	20.0~21.4	20~20.7

※ N.D.は調査時の定量下限値未満を示す (以降同様)

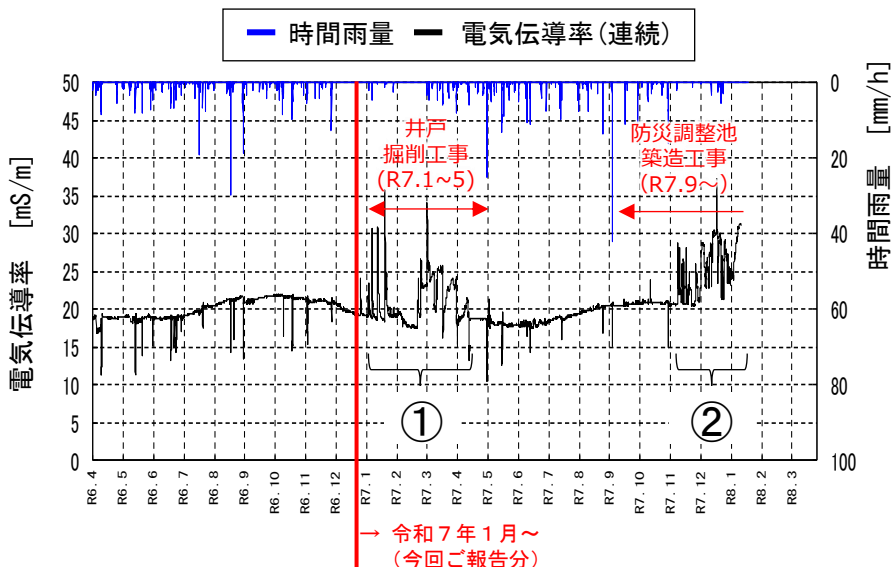


図 下流側モニタリング井戸の電気伝導率の連続測定結果

【電気伝導率の変動要因の考察】



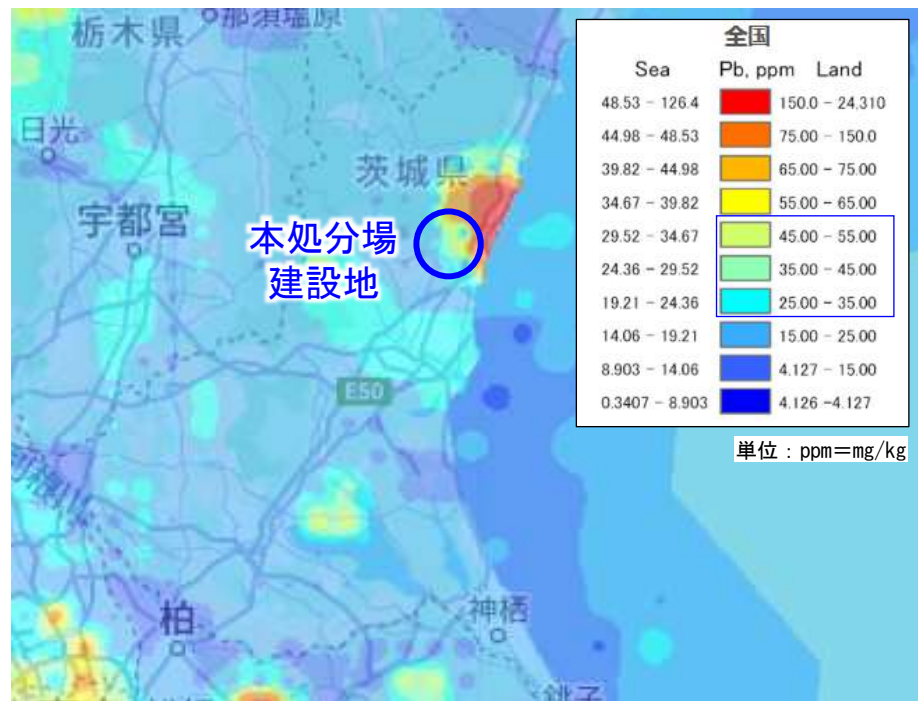
①揚水井戸掘削の影響
下流井戸近傍における揚水井戸の掘削工事によって、井戸の掘削水が地下水へ浸入したことが原因と考えられる。



②防災調整池築造工事の影響
防災調整池築造工事に伴う重機振動によって、土壤中の細粒分が地下水へ混入したことが原因と考えられる。

鉛が地下水から検出されている件で、地下水の基準上問題ないことはわかったが、土壌中の含有量についての考察があるとさらに安心できると思う。(小峯委員)

【前回会議での報告内容】



関東地方の表層土壌の地球化学図（鉛成分）
 (出典: <https://gbank.gsj.jp/geochemmap/index.html>)

日立市周辺の表層土壌中の鉛含有量は25mg/kg以上と周辺地域と比較して高い傾向にある。



地下水から検出された鉛は、自然由来の懸濁物（土粒子等）の混入によるものと推定された。

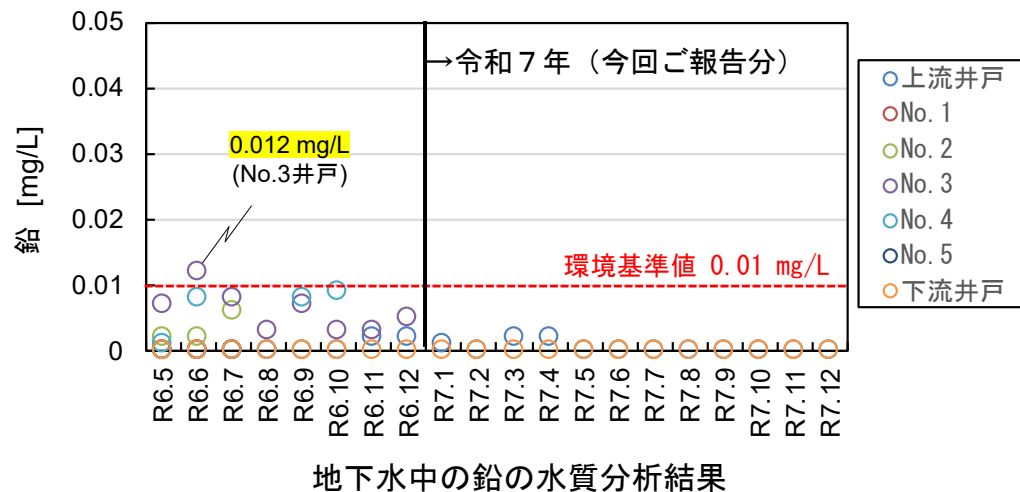


表 No. 2, 4の地下水（鉛）のろ過前後の測定結果（採水日：R4.10.3）

	No. 2	No. 4
ろ過前	0.068mg/L	0.048mg/L
ろ過後	<0.001mg/L	<0.001mg/L

注) 下線部:環境基準(0.01 mg/L)超過を示す



地下水から一部基準値を超過する鉛が検出されたが、検体をろ過することで濃度が減少することを確認

鉛が地下水から検出されている件で、地下水の基準上問題ないことはわかったが、土壌中の含有量についての考察があるとさらに安心できると思う。（小峯委員）

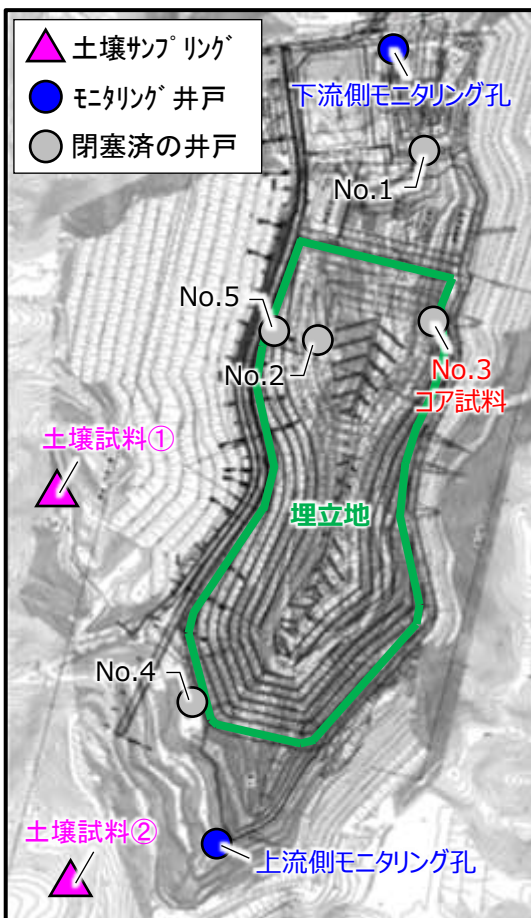


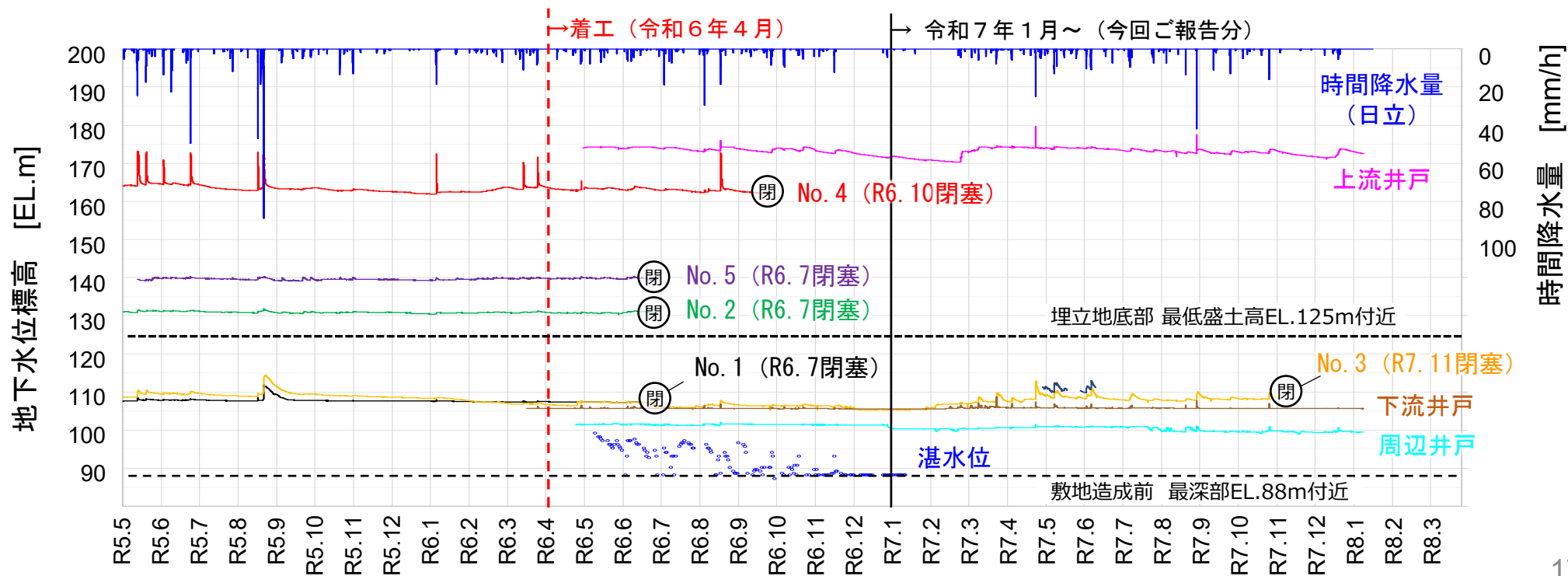
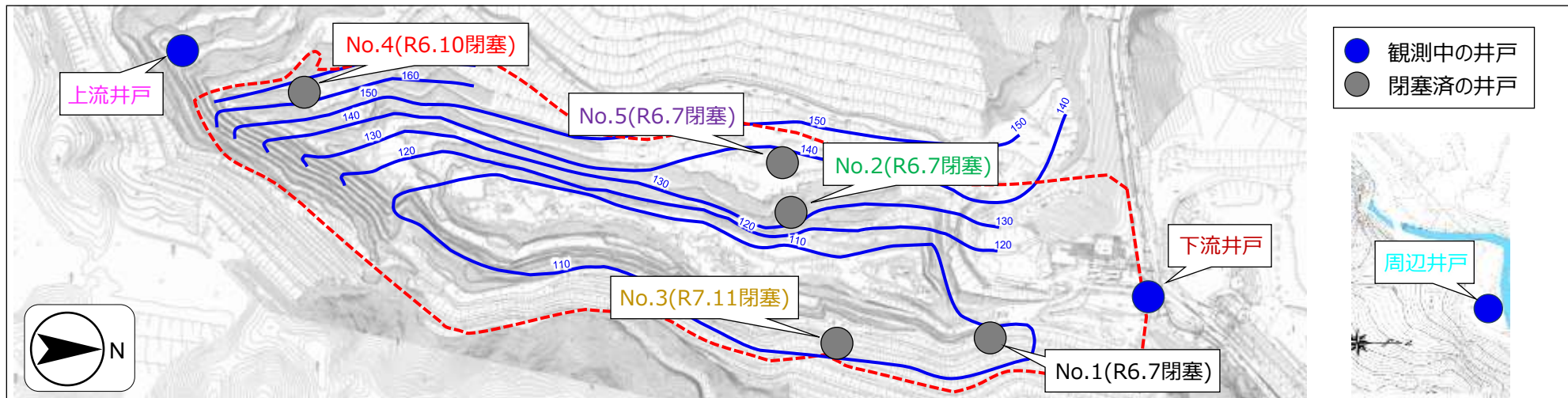
図 モニタリング井戸と土壌採取位置

表 処分場周辺の土壌試料及びコア試料中の鉛含有量

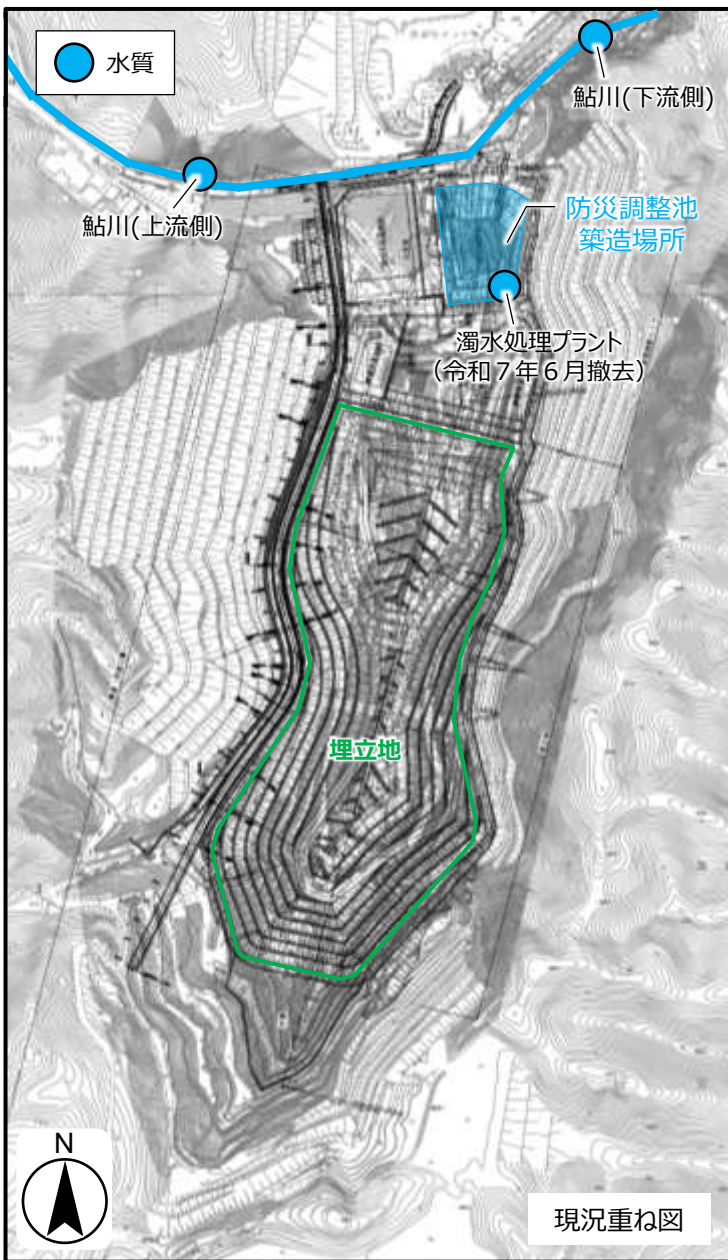
試料	▲ 土壌試料①	▲ 土壌試料②	○ No.3コア試料(岩石)	エコフロンティアかさま周辺(参考)	
写真			 		
土質/地質	シルト質砂礫	シルト質砂礫	粘板岩	—	
分類	風化粘板岩	風化粘板岩	新鮮部	劣化部	—
鉛(Pb)含有量 [mg/kg]	12 mg/kg (推定25~55)	20 mg/kg (推定25~55)	9.1 mg/kg	2.9 mg/kg	3.0 mg/kg (蛍光X線分析装置)
基準値	150mg/kg (土壌汚染対策法の基準値)				

- 鉛含有量は土壌試料12~20mg/kg、No. 3コア試料2.9~9.1mg/kgであり、土壌等の平均的な範囲内であった。
- 地下水から検出された鉛は、自然由来の懸濁物（土粒子等）の一時的な増加が主因であると考えられる。

令和7年 地下水位調査結果



令和7年 雨水排水・河川調査地点



防災調整池築造状況



築造中の防災調整池は貯水がない状態であるため、水路等が整備され次第、採水を再開

河川水採水中の様子



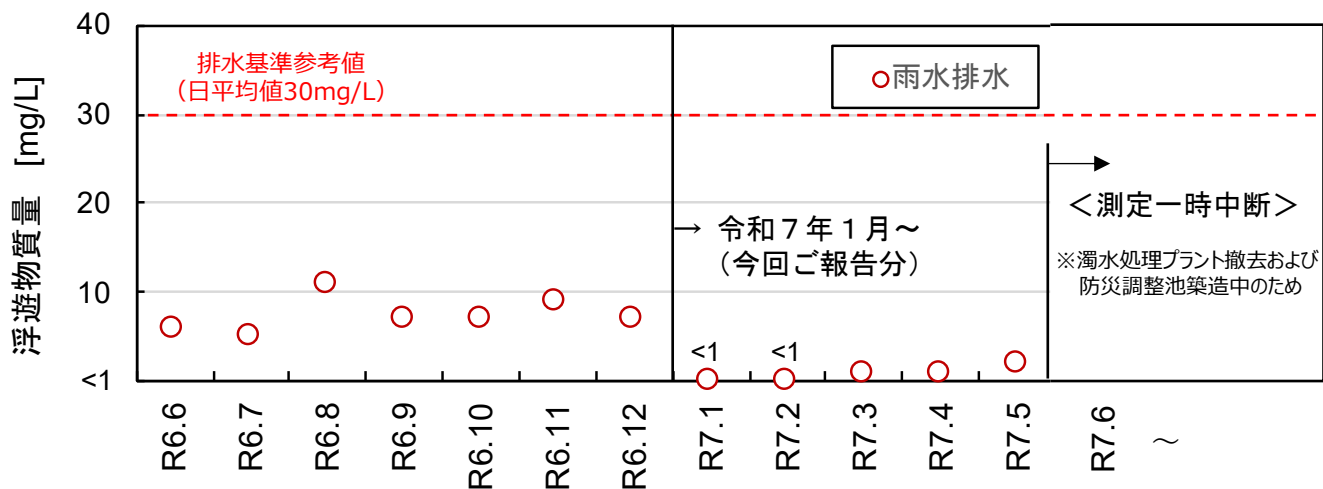
採水状況 (左：上流、右：下流)

令和7年 雨水排水調査結果

調査項目（抜粋して記載）		単位	排水基準※1	雨水排水	
				令和6年	令和7年
水温		℃	-	19.9~21.0	20.2~20.5
生活環境項目	水素イオン濃度	-	5.6-8.6	7.1~8.4	7.5~7.6
	生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	25(20) ^{※2}	N.D.	N.D.
	浮遊物質質量	mg/L	40(30) ^{※2}	5~11	N.D.~2
	n-ヘキサン抽出物質(鉱油類) [※]	mg/L		N.D.	N.D.
	n-ヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	mg/L		N.D.	N.D.
	亜鉛	mg/L		N.D.	N.D.
	溶解性マンガン含有量	mg/L	1	N.D.~0.2	N.D.
	大腸菌数	CFU/100mL	-	N.D.~7	N.D.
	窒素含有量	mg/L	120	0.9~1.6	0.6~1.6
	上記以外（重金属等）	mg/L	項目ごと	N.D.	N.D.
健康項目	鉛	mg/L		N.D.	N.D.
	ダイオキシン類	pg-TEQ/L	10	0.00072~0.0029	0.000039~0.00062
	上記項目以外	mg/L	項目ごと	N.D.	N.D.
自主項目	電気伝導率	mS/m	-	29.7~49.1	40.8~71.4
	化学的酸素要求量(COD)	mg/L	-	N.D.	N.D.

※1 排水基準値は、「排水基準を定める省令」及び「水質汚濁防止法に基づき排水基準を定める条例」を参考に設定

※2 () は、日平均値を示している



濁水処理プラント出口の水槽の状況

図 雨水排水の浮遊物質質量の推移

令和7年 河川調査結果

調査項目（抜粋して記載）		単位	環境基準	上流			下流		
				工事開始前	令和6年	令和7年	工事開始前	令和6年	令和7年
水温		℃	-	7.2~14.6	20.3~20.9	20.2~20.7	5.9~20.2	20.3~21.0	20.2~20.6
生活環境項目	水素イオン濃度	-	-	8.1~8.2	7.7~8.1	8.0~8.3	8.1~8.3	7.7~8.1	8.0~8.3
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	-	0.5~0.7	N.D.	N.D.~0.5	N.D.~1.2	N.D.	N.D.
	浮遊物質	mg/L	-	N.D.~3.0	N.D.	N.D.~4	N.D.~3	1~9	N.D.~3
	n-ヘキサン抽出物質(鉱油類)※	mg/L	-	1.2~1.8	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
	n-ヘキサン抽出物質(動植物油脂類)	mg/L	-		N.D.	N.D.		N.D.	N.D.
	亜鉛	mg/L	-	N.D.	0.003~0.007	0.005~0.009	N.D.	0.003~0.004	0.003~0.007
	大腸菌数	CFU/100mL	-	21	N.D.~27	N.D.~46	-	14~84	4~18
	全窒素	mg/L	-	1.19~1.38	1.2~1.4	1.2~1.6	1.2~1.4	1.3~1.5	1.2~1.6
	全りん	mg/L	-	0.013~0.020	N.D.	N.D.	0.01~0.02	N.D.	N.D.
	溶存酸素量	mg/L	-	10.4~12.5	9.3~10.8	9.7~12.1	9.2~13.1	9.1~11.2	9.7~12.0
上記以外（重金属等）	mg/L	-		N.D.	N.D.		N.D.	N.D.	
健康項目	鉛	mg/L	0.01		N.D.	N.D.		N.D.	N.D.
	ヒ素	mg/L	0.01		N.D.	N.D.		N.D.	N.D.
	ダイオキシン類	pg-TEQ/L	1	0.038~0.050	0.031~0.040	0.030~0.040	0.045~0.050	0.033~0.039	0.030~0.038
	上記項目以外	mg/L	項目ごと		N.D.	N.D.		N.D.	N.D.
自主項目	電気伝導率	mS/m	-	20.7~20.8	-	-	21.4~22.5	-	-
	化学的酸素要求量(COD)	mg/L	-	1.2~1.8	1.2~1.9	0.7~1.7	0.8~2.4	0.8~1.9	1.0~1.2



令和7年8月7日撮影

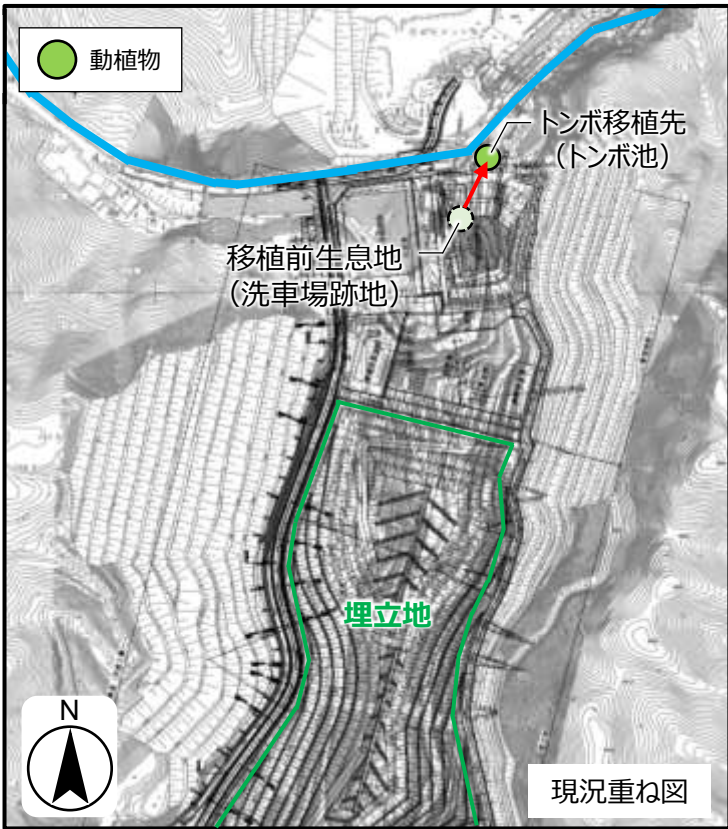
流量測定



令和7年8月7日撮影

河川水試料

令和7年 動植物調査結果（ネキトンボ）



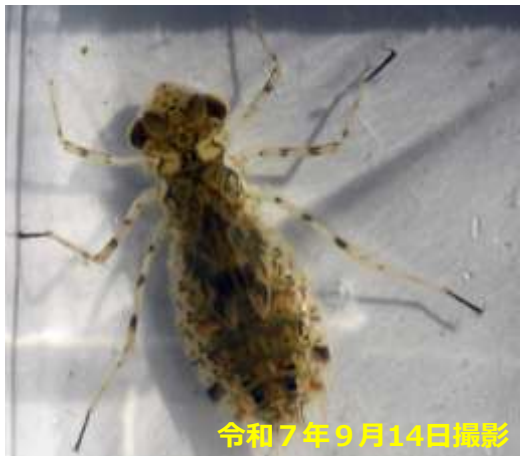
環境保全対策

代替池を創出する等の環境保全措置を講じ、事業による影響を可能な限り低減する。

調査中の様子



ネキトンボ成虫

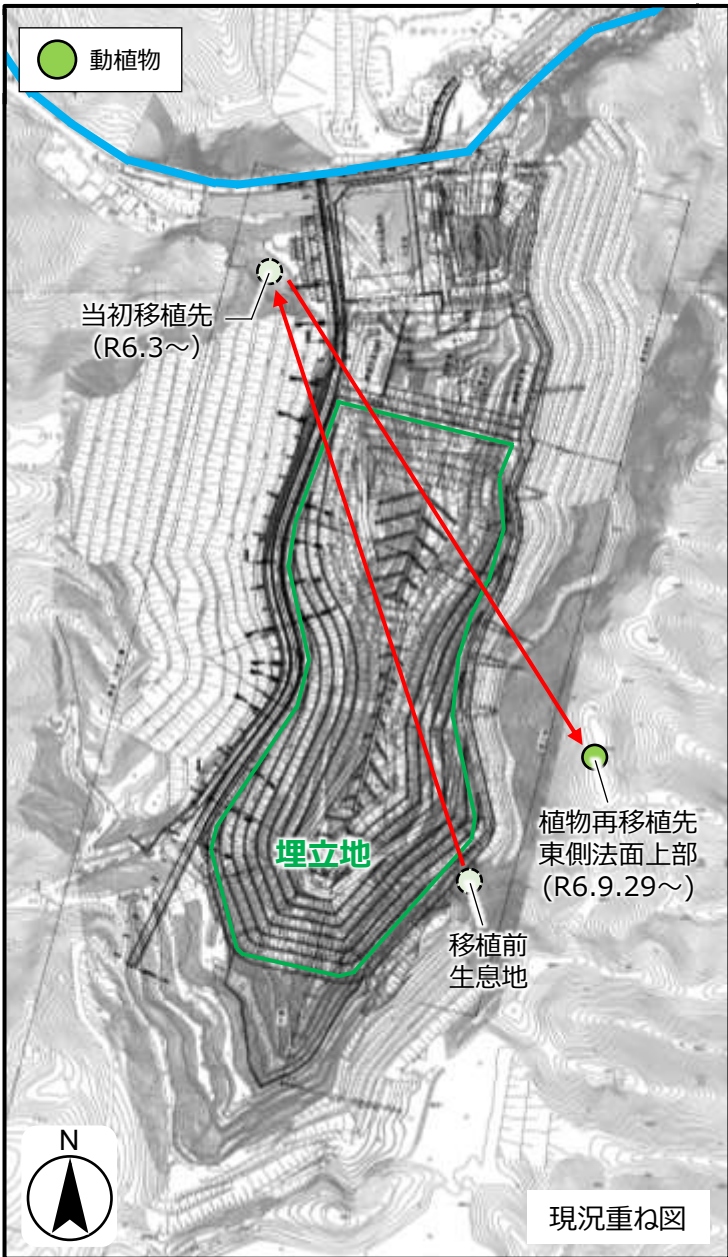


ネキトンボ幼虫 (ヤゴ)

調査結果

移植措置	令和6年調査結果 (昨年ご報告済)	令和7年調査結果	
		5/13	9/14
R6.4.22			
ネキトンボ 幼虫 107頭	<ul style="list-style-type: none"> ・移植した幼虫は成虫になったと考えられる。 ・オスの静止縄張り行動、メスの産卵を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネキトンボ幼虫を多数確認した。昨年繁殖し越冬した幼虫が順調に成長していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネキトンボ幼虫を多数確認した。若齢幼虫が大部分であり、5月に確認した幼虫は成虫になったと考えられる。 ・オスの成虫の飛来を確認した。

令和7年 動植物調査結果（植物）



環境保全対策

事業地周辺の適地環境への移植等の環境保全措置を講じ、事業による影響を可能な限り低減する。

調査中の様子



ガゴノキ



キジョラン

調査結果

項目	令和6年（昨年ご報告済）			令和7年			生育中 移植済
	当初 移植 3/5	再 移植 9/29	調査結果 11/13、12/1	追加 移植 3/16	調査結果		
					5/25	8/31	
ガゴノキ	45本 移植	30本 移植	概ね生育良好 〔1本が枯死〕	23本	概ね生育良好 〔14本が判断不可※ 1本が枯死〕	概ね生育良好 〔6本が生育不良 3本が枯死〕	49本 53本
キジョラン	7本 移植	7本 移植	生育良好	1本	生育良好	概ね生育良好 〔1本が枯死〕	7本 8本

※新芽、新葉が確認できなかった

令和8年度 環境モニタリング計画

測定項目、場所等 (★供用開始後、測定義務のある項目)			モニタリング予定	令和8年度												変更点
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
大気	一般環境	浮遊粒子状物質、窒素酸化物 粉じん(降下ばいじん)	処分場敷地境界付近(大平田集会所側)	工事中～供用後	○				○		○			○		-
		気象(気温、風向、風速)	大平田集会所	工事中～供用後	○				○		○			○		
	道路沿道	浮遊粒子状物質、窒素酸化物 気象(気温、風向、風速)	諏訪梅林増圧ポンプ場	工事中のみ	○				×		○			○		-
騒音 振動	環境	騒音・振動レベル	処分場敷地境界付近(大平田集会所側)	工事中～供用後	○				○		○			○		-
			大平田集会所	工事中～供用後	○				○		○			○		
	道路交通	騒音・振動レベル、交通量	諏訪梅林増圧ポンプ場	工事中のみ	○				○		○			○		-
			梅林通り	工事中のみ	○				○		○			○		
水質	周辺井戸	水道水質基準	周辺井戸(1箇所)	工事中～供用後					○							-
		連続(pH、EC、水位)	※1号増圧場内	工事中～供用後	← 連続 →											
	場内 監視井戸	規制項目等①	★場内監視井戸(2箇所)	工事中～供用後	○				○		○			○		-
		規制項目等②	※工事範囲外の上流・下流	工事中～供用後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		連続(pH、EC、水位) 連続(水位)	場内監視井戸1箇所(下流井戸) 場内監視井戸1箇所(上流井戸)	工事中～供用後	← 連続 →											
	雨水排水	排水基準項目等①	防災調整池(完成後)	工事中～供用後	○				○		○			○		・防災調整池及び 周辺水路の整備完了後、再開予定
		排水基準項目等②		工事中～供用後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		排水基準項目等③		工事中～供用後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		連続(pH、EC)		工事中～供用後	← 連続 →											
	河川水質	環境基準項目等	放流地点 上流、下流	工事中～供用後	○				○		○			○		-
河川底質	11項目	放流地点 上流、下流	工事中～供用後	○				○		○			○			
動植物	動物	ネキトンボ	トンボ池	工事中～供用後	○				○						-	
	植物	カゴノキ、キジョラン	東側法面上部 再移植先	工事中～供用後	○				○							

※ 令和8年1～3月実施調査の結果については、来年3月開催(予定)の有識者会議で報告を予定

※ 処分場の供用開始に向けて、供用前のバックグラウンドの測定の検討を行う。